

1. 評価報告概要表

作成日 2009年5月20日

【評価実施概要】

事業所番号	
法人名	医療法人社団三思会
事業所名	グループホームクララ相生
所在地	桐生市相生町2丁目368-6 (電話) 0277-70-6610

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年4月18日

【情報提供票より】(平成21年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人 非常勤 0人 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.4歳	最低 75歳	最高 96歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東邦病院 ・ つくなくクリニック ・ 長谷川歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体に老人保健施設、病院を持つこのホームは、幹線道路から少し入ったところに立地している。建物は居室から自由に出入りできるウッドデッキが広く設置されており、天気の良い日は食事やおやつを食べることもできる開放的な造りである。また、入居者の生活歴や趣味を把握し、作品製作や書道、絵画、縫物などをその方に合わせて提供し、作品展を開催して毎日の生活に意欲を持ってもらえるよう支援している。さらに入居者に合ったケアを提供するため、1週間に一度は介護計画の実行状況を確認、評価し、最適な介護がなされるよう取り組んでいる。家族や近隣住民と話したり、関わりを重ね、信頼関係を大切に運営されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価の取り組みである。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、まず管理者が項目を検討し評価を入れ、さらに会議で職員も含めて一つ一つ項目内容を検討し完成させている。その中でホームの課題が認識され話し合い、新たにホーム独自の理念を作り上げることができ、職員の休憩について話し合う等改善に取り組んでいる。</p>
	<p>重点項目②</p> <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に一度、ホームの地主でもある民生委員や市の担当者である地域包括支援センター職員、順番制で家族代表、ホーム職員が参加し、入居者の様子やホームの取り組みを報告している。また、駐車スペースの検討、変更などの要望を実行に移し、その改善結果を逐次報告している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時には管理者が窓口となり、入居者の様子を口頭で伝えている。また面会が少ない家族の場合には、月に一度は電話で報告している。また運営推進会議は持ち回りで参加し、その際意見や要望を出しており、意見をもとに駐車スペースの検討、変更など実際に取り組んでいる。また、年に一度家族面談の機会を設け、個別に意見や要望を伺っている。入居する際にはホーム以外の苦情窓口やホーム担当者の説明をしており、玄関に意見箱も設けている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>周辺地域の自治活動が少ないながらも町内会に入り、地域の清掃活動に参加するなどの活動をしている。また、回覧板を回すなどして地域の方とは顔馴染みになっている。さらにホームで作る畑で野菜の作り方を教わったり、近所から野菜をいただいたり、近所の子供が遊びに来たり交流が行われている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に根ざした質の高い看護・介護に努めます」という法人理念を、職員でさらに具体的かつ細分化して検討し、「利用者に家庭的な環境を提供する。自立した生活を促す。意思や人格を尊重する。地域との関係を大切にする。」という理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に職務マニュアルを配布し、法人理念も含めてホームの理念を説明し、理解してもらうよう努めている。また、管理者は月に一度の会議やカンファレンスでも話している。職員は入居者と関わる時や行動を待つ時などに、理念を念頭におき対応している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周辺地域の自治活動が少ないながらも町内会に入り、地域の清掃活動に参加するなどの活動をしている。また、回覧板を回すなどして地域の方とは顔馴染みになっている。さらに、ホームで作る畑で野菜の作り方を教わったり、近所から野菜をいただいたり、近所の子どもが遊びに来たり等の交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価の取り組みで、自己評価はまず管理者が項目を検討し評価を入れ、さらに会議で職員も含めて一つ一つ項目内容を検討し完成させている。その中でホームの課題が認識され話し合い、新たに理念を作り上げたり、職員の休憩について話し合ったり等の改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度、ホームの地主でもある民生委員や市の担当者である地域包括支援センター職員、順番制で家族代表、ホーム職員が参加し、入居者の様子やホームの取り組みを報告している。また、参加者から意見や要望があった場合は、その改善結果も報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームは、サービスの向上や課題解決のため、事あるごとに地域包括支援センターへ出向き、様々な角度から意見やアドバイスをもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に管理者が窓口となり、入居者の様子を口頭で伝えている。また、面会が少ない家族には、月に一度は電話で報告している。さらに年に一度は家族面談の機会を設け、これまでの様子や今後について話し合っている。金銭管理は面会時に各入居者の出納帳を確認し、サインをもらっている。職員の異動は、法人全体の機関紙で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は運営推進会議に持ち回りで参加し、意見や要望を出しており、駐車スペースの検討を行うなど意見をもとに組み組を行っている。また、年に一度家族面談の機会を設け、個別に意見や要望を伺っている。入居する際には、ホーム以外の苦情窓口やホーム担当者の説明をしており、玄関には意見箱も設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人が人事異動を管理しているが、入居者が馴染みの職員からの介護を受けられるように異動を制限している。異動がある場合には、新旧職員が2週間は一緒に働く期間を設け、引継ぎがスムーズで入居者が馴染むよう支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームは、研修計画をもって職員の経験や実績に合った研修に参加できるようにしている。法人内の勉強会が2週間に一度開催されており、参加できる体制がある。また、希望があれば研修に参加しやすい勤務日程にして、研修を受ける機会の確保に努めている。研修参加後は報告書を作成し、会議で報告して閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの研修や今後のリーダー養成の勉強会を実施しているが、地域密着型サービス連絡協議会に加盟して半年であり、まだ相互訪問等の活動は行っていない。	○	相互訪問活動を実施していただき、双方のよい面を取り入れサービスの質向上に努めてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望の家族には必ず一度はホーム見学に来てもらい、雰囲気を覚えてもらっている。また、本人が居宅の場合は職員が何って話をきいたり、施設入所の場合も訪問して情報を集めたり希望を何う等関わりを持ち、スムーズな入居になるよう支援している。入居後も家族に面会を増やしてもらったり、電話をする等して安心感をもっていただけるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、畑作りや家事について入居者から教わる機会が多く、また戦争体験者から当時の話を聞き考えさせられることもある。日常生活をともにするなかで、職員の感情を入居者が敏感に捉え励まされる場面もあり、「支えられている」ことを痛感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の基本情報や生活歴を記録にとり、東京センター方式のアセスメントを用いて入居者の表面に表れない意向の把握に努めている。日頃から入居者一人ひとりの希望を何うよう努めており、それ以外にも観察から読み取れる意思表示に注意している。その中で気付いたことなどを、年1回の家族面談の機会に家族に確認し、入居者について理解を深めることもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族の希望を伺った上で、職員が担当入居者の情報収集を行い、介護計画の原案を作成している。その後も本人の観察から計画の見直しを行い、さらに月に一度のカンファレンスでケアマネジャーやその他の職員からの意見を入れて作り上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施内容は、毎週どの程度実施できているのか職員が確認し評価している。その評価結果を元に職員で話し合い、計画の見直しや変更を3ヶ月に一度実施している。変更の際にも本人や家族には説明し、意見をきいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時や家族の都合がつかない場合は、職員が付き添い受診をしている。入院された場合には、毎日お見舞いに行き希望をきいたりしている。また、買いたいものがある場合や希望の理美容院に出かけられるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでは、かかりつけ医の場合でもホームの協力医でも受診可能である。また、協力医からは在宅療養のポイントとして毎月各入居者ごとに書類を作成してもらい、ケアの方針をわかりやすい言葉でまとめてもらい実際の支援に活かしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、医療行為が必要な場合のホームの方針は説明しているが、開所後間もないため重度化した場合や終末期に向けてのケアについては統一した方針ができていない。	○	今後は家族や本人の意向を伺い、急変時や終末期を迎えた時の対応について、医師も交えて方針について話し合っていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に排泄介助の言葉かけなどの入居者に直接かかわる場面やプライバシーについてのマニュアルがあり、会議の際に話をして職員に理解を促している。また、個人情報には表からみえないようクローゼットの中で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、天気がよければ畑作りをしたり、散歩をしたり、買い物に出かけるなど職員の状況が許す限り入居者の希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家政科の教師経験のある入居者には、食事の準備や後片付けを手伝ってもらっている。また、立位での調理が困難な入居者が多いため、テーブルでできるホットプレートを使った料理など入居者全員が参加できるような食事の機会を設けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、受診や往診のある木曜以外の平日の午後に行うよう決まっており、入居者の希望やタイミングに合わせた支援は行っていない。	○	入居者にその日の希望を確認する等、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた入浴支援ができることを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者には、書道や絵画・作品製作などその方が興味を示したことを継続して行ってもらい、作り上げた物を発表できる作品展を開催するなど張り合いをもっていただけよう支援している。また、畑作りなどで収穫の喜びを味わってもらったり、月に一度は外出の機会を設け気晴らしができるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に一度はイチゴ狩りや動物園見学等の外出と同時に、希望の外出ができる機会を設けている。また、天気の良い日には散歩や畑に出るようにし、個人で希望の買い物もできるだけ行けるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーはあるが日中は鍵をかけず、また各居室の掃きだし窓も鍵をかけず好きな時に外のデッキに出ることができる。職員は観察を密に行い対応し、近隣の交番には入居者の写真を渡して協力を仰いでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行っており、消防署立会いのもと避難訓練を実施している。その中で消火器の使い方を学び、避難経路や避難場所を決めて確認している。また、地域の方の協力や参加がかなうよう民生委員に依頼をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック、食事量チェック、必要に応じて、水分摂取チェックをしている。食事療法の必要な疾病にも対応できる。母体施設の管理栄養士に写真付き献立を渡しアドバイスをもらい、できるだけバランスのとれた食事を提供するように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共有空間は日差しが強い時にはロールカーテンをひいて調節している。裏は畑になっていて、大きなガラスのサッシ越しに見ることができ季節感が味わえる。また、洗面所やテーブルに季節の花を飾っている。ホールは、テーブル席で話をしたり、テレビが見たい入居者はソファで過ごす等思い思いに過ごせる空間になっている。居室は温度調節や換気などに職員が気を配り調整している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持参してくる物の制限はなく、本人の希望に応じて椅子、テーブル、タンス、家族や孫の写真等を飾り入居者が居心地よく過ごせるようになっている。		